アーツ前橋
ARTS MAEBASHI

TAKE FREE

アーツ前橋の情報誌

&Arts

アンドアーツ

第8号

対話から見えてくる、新しい前橋

ARTIST'S VIEW / インタビュー
アンナ・ヴィット ANNA WITT

特集「移住者たちの物語」

アーティストコラム 幸田千依

Photo: 上原ミワ

アーティストが見た前橋

ARTIST'S VIEW

ANNA WITT
アンナ・ヴィット

アーティストが切り取った
前橋を紹介するコーナー

①この手すりがベンチになれば人とのいい出会いの場になりそう。②フィリピンで人気のデザート「レチェ・フラン」。③街の中心部にある空き家。
④竪町スタジオに近い民家の庭先にて。⑤前橋のマニラの店。⑥缶詰に密閉されたフィリピンの味。

INTERVIEW

他者との対話から社会的問題を可視化する。
TO VISUALIZE SOCIAL ISSUE BY DIALOGUE WITH PEOPLE.

通訳：海老原周子

ドイツ出身で、オーストリアのウィーンを拠点に活動するアンナ・ヴィットさん。政治的・社会的テーマを題材に取り上げる彼女の作品は、地域の人々とのコミュニケーションから作り上げられ、わたしたちが暮らす日常のリアルを浮き彫りにする。前橋に滞在し、作品制作のために移住者たちを取材しているという彼女に、制作の動機などを聞いた。

ー前橋は今回の滞在が初めてですか？

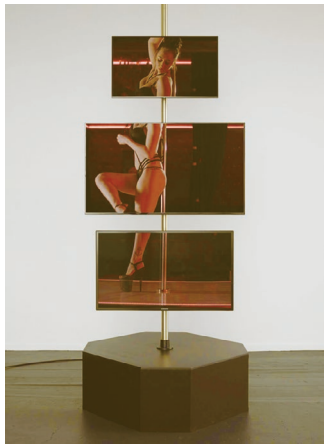
12月にリサーチで８日間前橋に滞在しました。その前は、オーストリア政府のプログラムの一環で東京に滞在していましたが、その時はなかなか地域の方と接する機会がありませんでした。今回、東京に滞在した経験をもとに作品のアイディアを考えていたのですが、実際に前橋に来てみると東京とはかなり状況が違うということを感じました。

ー東京と前橋では具体的にどういうところに違いを感じましたか？

東京はもちろんすごく大きな都市で、多様性のある場所です。みなさん仕事をベースに生きていて、資本主義とテクノロジーの都市だなと感じました。東京は国際的な都市ですが、もしかしたら前橋のほうが、今の日本全体の状況を反映しているのではないかと思います。前橋に来て、地元の方々と交流を持てるということはとても嬉しく思っています。

ーこれまでの作品について教えてください。

主にビデオやパフォーマンスといった手法で、参加型の作品を作っています。社会的なことや政治的なテーマに関心があって、特定の問題について参加者と一緒に考えていくような作品が多いです。制作の時には、出演者たちとコミュニケーションを取りながら、一緒に作るということをとても大事にしています。一番最近の作品《Beat Body》は、ベルリンの娼婦の方々と一緒に作りました。彼女たちの心臓の音を録音して、それに合わせてポールダンサーの方に踊ってもらったんです。娼婦の方々が普段立っている通りに実際に行って、対等な関係で話しながら作りました。社会の状況を作品に反映させることが重要だと思っていて、政治的なことや社会の中でのヒエラルキーなど、今作品に反映させるべき社会的な価値は何か、ということを考えるようにしています。


《Beat Body》2016 年

ー政治的・社会的なことを題材として取り上げる理由は？

様々な人が平和に共存する、ともに生きていくことがとても大事だという考えが根底にあります。アーティストとして、政治的・社会的なことを考えていくことがとても重要だと思いますし、社会の状況や、自分たちの意見がどのように社会に影響したり、反映されていくかというのを批評的に見ていくことは、アーティストとしてやるべき活動だと思います。それは社会が発展していく中で外せないことだとも思っていて、自分の作品や制作過程でも重要視しています。

ー前橋ではどんなことをやろうと思っていますか？

街を観察していて、人口減少や経済衰退といった部分を感じたのと、ここ数年、前橋に移住してくる外国人が増えていると聞きました。人口のピラミッドの変化をテーマに、日本に仕事のために来て住んでいる様々な移民のグループと、あとは高齢者の方々、その二つを組み合わせることを考えています。移民の人たちの物語を、比較的年配のダンサーたちに、身体を使って動きで表現してもらうというコンセプトを考えています。またある意味、移民や難民といった社会の問題は、グローバルな問題としても捉えることができて、ヨーロッパではおそらく日本よりも活発な課題なんですね。日本が直面している高齢社会の中でどのようにやっていくかというのは、ヨーロッパもこれから高齢社会になっていくので、関連性があると思っています。

ー前橋でリサーチしていて面白い人に会いましたか？

移民の方々にインタビューを始めたところですが、こんな話が聞けるんじゃないかという自分の想定を裏切るような話が結構あるので、それをとても楽しみにしています。また、県内のいくつかのダンスグループの公演を高崎で見たのですが、どういうふうに体を使っているかといった身体表現の面白さを感じました。表現の一つの手法として即興だったり、他のアジアでは見られないような独特な表現の形をしているなと思いました。自分の作品の中でダンスというものは重要な位置を占めていて、今の社会や文化がどのような体の動きとして反映されているかが現われていると思っています。

ー面白い作品に仕上がりそうですね。

いいものを作りたいと思っています。前橋には色々と面白いなと感じるところがたくさんあって、この地方の街にこんなにいろんな側面があって、制作のアイディアになりそうなものがあるんだということを実感しました。

ANNA WITT｜アンナ・ヴィット

1981年ドイツ生まれ。オーストリア在住。2008年にパフォーマンスを含むインスタレーション作品で修士号を取得。その後、数多くの国際的な展覧会に参加。彼女の作品は、ザンクト・ガレン美術館（スイス）やルートヴィヒ美術館（ドイツ）、ベルベデーレ宮殿（オーストリア）などでコレクションされている。2013 年に 40 歳以下を対象としたオーストリアのアーティストに与えられる BC21 Art Awardを受賞したほか、2015 年にはThe Future of Europe Art Prize を受賞。

Illustration: あしか図案

THEIR IMMIGRATION STORIES

特集｜移住者たちの物語

スモール・ワールド・イン・マエバシ

前橋市には4,000人を超える外国人住民がいるのをご存知ですか？
人口比率としては100人に1人の割合。
国も言葉も文化も違う、それぞれの移住者のまえばしライフ。
彼らはどんな理由でこの街に来て、どんな日常を送っているのだろう。
そして、どんな前橋の未来を願っているのか、5人の移住者に聞きました。

ギャレット・マッカラーさん

出身地：アメリカ／オレゴン州　年齢：32歳

英会話学校講師として前橋に来て10年。今は個人向けレッスンのほか、安中・高崎でも英語を教えているギャレットさん。「前橋は歩いていろんな場所に行けるので住みやすい」そうですが、逆に足りないものは？と質問すると「アメリカにはよくあるメキシコ料理店が少ないのが残念」との答え。奥さんと3歳の息子さんとのファミリーで取材に応じてくれたギャレットさんの好きな場所は、前橋こども公園や前橋プラザ元気21のこども図書館とプレイルーム。お子さんを連れてよく遊びに行くそうです。

テジャサ・プラスィットさん

出身地：タイ／ラムプーン県　年齢：42歳

「前橋のなかでも特に赤城山は、故郷の風景に似たところがあって好き」と語るのは、馬場川通りにある「タイ麺セマクテ」を営むテジャサさん。日本人の奥さんとタイで知り合い、15年前に前橋に移住。自分の味のトムヤム麺を出したいとの想いから、2009年にお店をオープンした。赤城山にはお店で使うパクチーやハーブ、果物などを育てている畑があり、車で山頂まで行って景色を楽しむこともあるそう。2017年3月に現在のお店は閉店し、4月下旬、立川町通りに移転して再オープン予定。

デブコタ・サガルさん

出身地：ネパール／カトマンドゥ　年齢：24歳

19歳で留学生としてネパールから前橋に来たサガルさん。前橋の印象を聞くと、「山が近いのが故郷のカトマンドゥに似ている」とのこと。ただ、雷を映画でしか知らなかったので、初めて来た頃はとても怖い思いをしたそうです。前橋にはネパール料理店が無く、食べ物が合わなかった経験から、輸入食材店を自ら始め、この2月にはネパール料理店「エベレスト　ダイニング＆バー」をオープン。「学生が家で作るより安く提供したい」との理由から良心的な料金設定に。前橋に欲しいものは「空港」。

金 仙礼（キム・センレイ）さん

出身地：韓国／光州　年齢：46歳

クリスチャンの金さんが日本に来たのは教会の仕事がきっかけ。現在は、アーツ前橋の目の前にある韓国料理店「大韓民国」を営んでいる。カムジャタンやスンドゥブチゲが人気メニュー。前橋に欲しいものは「屋台」。韓国では夕方になると特定の場所に集まってくる「ポジャンマチャ」と呼ばれる屋台が有名ですが、「夏場、広瀬川沿いに屋台が立ち並んでビールが飲めたらいいのに」とのこと。お店としてではなく、お客として飲みに行きたいそうです。

ムバルガ・アベッソロ・ディブンジェ・ピエール・ステファンさん

出身地：カメルーン／ドゥアラ　年齢：27歳

前橋に来てまだ2年なのに、流暢な日本語を話すステファンさん。コンピューター技術とロボット工学の勉強のため、どうしても日本に留学したかったという。2010年に一度来日したものの経済的な理由で留学を断念。カメルーンで会社を立ち上げ、わずか3年のうちに自力で留学資金を作り、無事ビザを取得。明るい人柄で、前橋ではこの2年の間に友達がたくさん出来たと言う。「前橋はこのままでいいと思うけど、利根川で水力発電が出来たらいいのに」と彼らしいアイディアを語ってくれた。

COLUMN アーティストコラム

「私のおすすめアイテム」 幸田千依

私のおすすめアイテムは「自転車」です。特に、ママチャリが好きです。

ここ７年ほど日本各地に滞在し、そこで絵を描くことを続けてきたのですが、長い期間ある地域で絵を描きながら暮らしていると、毎日同じことをし、毎日カレーを食べ続け、毎日同じ道を通るなど、だんだん修行僧のようになってきてしまいます。

そんな時、制作場でもなく家でもない、自転車に乗っている道すがらで意識が異様に研ぎ澄まされ、視野がパカッと広がることがあります。眼に飛び込んでくる全ての景色が自分に関係あるように思え、毎日の小さな変化に感動し、描くことについても、暮らすこと、生きることについてもある距離感をもつことができ、自分にとって大切なことが突如ひらめいたりします。

2013 年にアーツ前橋主催の「磯部湯活用プロジェクト」で前橋に暮らした時も、磯部湯と家のあいだを毎日自転車で往復し、沢山ひらめきました。その時みたものを絵にすることもしました。前橋の道の印象やその時湧いた思いを今でも持っています。

私にとって「暮らすこと」と「絵を描くこと」を分けがたく結びつけているものが、その両者をつなげる道であり、移動の時間そのものです。もしかするとその道自体が一番大切かもしれないとさえ思う最近です。

いつでも外の世界に立ち止まることが可能な速度と体感でありながら、歩くより軽やかな思考が巡る「自転車」は、今とっても最適なアイテムとなっています。

幸田千依（こうだ・ちえ）

1983 年東京都生まれ、長崎県育ち。2007 年多摩美術大学卒業。様々な場所に住みながらの滞在制作を中心に活動を行っている。絵画の公開制作を自覚的に行うなど、自身が絵画をつくる過程を見せること、人と作品との出会い方について考え、描くことと見せることの両方について模索。「VOCA 展 2017」にて、VOCA 賞受賞。前橋では、2013 年に旧銭湯「磯部湯」を使った公開制作・作品展示を行ったほか、「地域アートプロジェクト報告展」(2014 年) に出品。

WORKS 収蔵品紹介

アーツ前橋では、前橋市がこれまでに収蔵してきた作品に開館後に新たに収蔵した作品を加えて約650点を収蔵しています。これらの美術作品は、市民にとって大切な宝ものであり、未来へ残して伝えていく贈り物です。

人形に込められた、たおやかな感性

伊藤三枝《早春》 ITO Mie *Early Spring*
2012 (平成 24) 年　木彫布貼　31×12×10cm　2015 年度購入

「春霞に烟 (けむ) る野山の風景、そんな早春の空気を感じ取る気持ちを大切にしたい」という伊藤三枝（前橋市生まれ／1926ー2016）の感性が、左手を口元に添えながら首をかしげ、右手には紅梅の枝を手にする初老の女性のたおやかな姿に表現されている。本作品は、桐材を掘り、頭部と手は胡粉を塗り、衣装部分は布などを貼って仕上げる木彫布貼の技法で制作され、第 26 回伝統工芸人形展で東京都教育委員会賞を受賞した。

伊藤は戦後まもなく、自宅近くに疎開していた浅草の人形職人から見よう見まねで人形作りを学ぶが、本格的に作品制作を始めたのは遅く、結婚・出産・育児がひと段落した 35 歳のときで、人間国宝の野口園生に師事した。野口没後は、同門の玉置光子に学び、その勧めで 70 歳で日本伝統工芸展に出品するようになるが、これまでに日本工芸会賞などを受賞した。30センチほどの人形のやわらかな表情、品のある仕草は大きな魅力だが、中でも伊藤の作品には衣装の美しさがある。和服を日常着としていたことを知る世代だからこそわかる、身体に馴染んだことでできる生地の皺や柄合わせの微妙な表現、そして布の染色を自ら行うなど素材へのこだわりからは、作品への深い想いが伝わってくる。

「うしろまえばし」はアーツ前橋のアートスクール受講生が立ち上げたプロジェクト。

まえばしぶんか探索隊

うしろまえばし

https://www.facebook.com/ushiromaebashi/

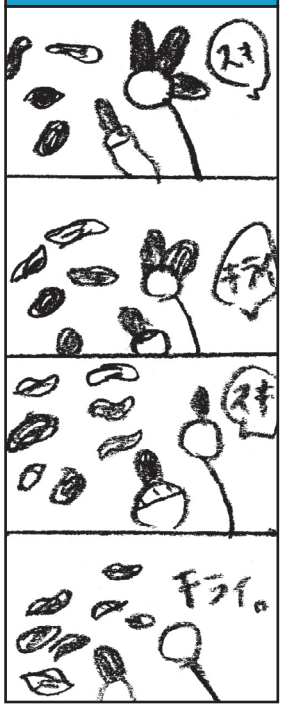
街を歩いて気づいたものをアートスケッチしています。活動はFacebookページ

「ぽつん」

見事なトマソン物件。川の真ん中に立つ、一本の柱。
なにかと思ってよく見ると、川の右と左に道があったらしき形跡が。
この柱が、橋脚であることが分かります。田口町にて。(隊員A)

マエバシマンが！

作：アヤボー



みんなで作る「マエバシマンが！」1コマ横36×縦23ミリのフォーマット（拡大も可）でご応募ください！ 宛先は〒371・0022前橋市千代田町5・1・16 アーツ前橋 アンドアーツ担当まで。

まえばし COLLECTORS FILE

街の人が集めているものを紹介してもらうコーナー。それがなんであれ、好きならば集めてしまうのが人というもの。集めればそこに新たなる美が宿る？

#5

千代田町・鳥山海苔店

鳥山幸子さん

マッチラベル 約1,000枚
箸袋 約200枚
たばこ空き箱 約100枚
キーホルダー 約200個

マッチ箱は小学生の頃からのコレクション。お店でタバコを売っていたこともあるから、昔の珍しいパッケージとか、この辺りの昔よく行った飲食店の箸袋もみんなとってあるの。旅先の土産物屋では必ずキーホルダーを買うんだけど、空き缶につっ込んでおいたのがようやく日の目を見たわね（笑）。

EVENT まちなかイベント情報

第 24 回萩原朔太郎賞受賞者展覧会
日和聡子『びるま』から『砂文』まで
2017 年 1 月 15 日 [日] ～ 2017 年 3 月 14 日 [火] 9:00 ～ 17:00（水曜休館）
萩原朔太郎記念・水と緑と詩のまち 前橋文学館　2 階展示室
萩原朔太郎賞を受賞した日和聡子の詩や小説、さまざまな資料を紹介。観覧料 300 円

前橋こども図書館 演劇のつどい『おこんじょうるり』
2017 年 3 月 19 日 [日]
前橋プラザ元気 21　中央公民館　3 階ホール
[午前の部] 開場 10:00／開演 10:30 [午後の部] 開場 13:30／開演 14:00〇入場無料

群馬銀行ブラスバンド部　第 17 回定期演奏会
2017 年 3 月 20 日 [月・祝]
ベイシア文化ホール（群馬県民会館）大ホール
開場 13:15／開演 14:00（13:30 よりウエルカムアンサンブルを予定）〇入場無料

EXHIBITION アーツ前橋 展覧会情報

「Art Meets 04　田幡浩一／三宅砂織」

2017 年 3 月 18 日 (土) ～ 5 月 30 日 (火)
開館時間：11:00 ～ 19:00（入場は 18:30 まで）
休 館 日：水曜日（5 月 3 日 (水) は開館）
会　　場：アーツ前橋　ギャラリー 1
観 覧 料：無料

「Art Meets」は、さまざまな人々がここで、アートに出会い、アートを通じて創造的な日常を発見し、多様な考え方や感性に触れていただくことを目的に、中堅アーティストを紹介する企画展として毎年開催しています。第 4 回は田幡浩一（1979年生まれ）と三宅砂織（1975年生まれ）です。

田幡浩一の作品は、私たちがある対象を認識するとき、目の前にある姿だけでなく、別の時間や動きを感じとる複数の見えかたを伝えます。三宅砂織の作品においては、彼女自身や他者が撮影した写真を利用して描いた凡庸なイメージが、鑑賞者を通して豊かな想像力を生み出すきっかけとなっています。写真や映像によって思い出や記憶を振り返るように、私たちは目の前にあるものを通して、そこにはないけれど存在するものを思い描くことができます。二人の作家は表現を通じて、イメージを見るという経験から想起される動きや時間、記憶といった私たちの想像力の広がりに気づかせます。

田幡浩一《72 colour(Birds)》2014 年
色鉛筆、紙　72 枚のドローイングと映像　作家蔵

関連イベント

ワークショップ「円の縁」
2017 年 3 月 19 日［日］14:00～16:00
アーティストの制作を追体験できるドローイングワークショップを行います。
会場：アーツ前橋　スタジオ
定員：20 名［要事前申込］
対象：どなたでも（未就学児は保護者同伴）
講師：田幡浩一

今月のおすすめ
by
ROBSON COFFEE アーツ前橋店

この時期おすすめの「グァテマラ・ヒュナップ／ウォッシュド」。ブルーベリーやアップルのようなほのかな酸味と、ナッツやチョコレートの印象を感じる、クリーミーで口当たりの良いコーヒーです。コーヒー 450 円（税込）。ケーキセット 770 円（税込）。ケーキの種類は変更になることがあります。

&Arts ISSUE 8
アンドアーツ 第 8 号

発行：平成 29 年 2 月 28 日
企画・発行：アーツ前橋　制作コーディネート：M-wave
編集・アートディレクション・デザイン：殿岡 渉（あしか図案）　写真：上原ミワ
ロゴデザイン：荻原貴男（OGIWARA TAKAO DESIGN）

アーツ前橋　〒371-0022　群馬県前橋市千代田町 5-1-16　TEL：027-230-1144　FAX：027-232-2016

表紙の人：（右から）アンナ・ヴィットさん＆デブコタ・サガルさん（エベレストハラール前橋）

www.artsmaebashi.jp

文化庁　助成：文化庁 平成 28 年度　地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業